

(別紙)

当事者目録

原告	岩崎工業株式会社
同訴訟代理人弁護士	加藤幸江
同	中務尚子
同	山田威一郎
同訴訟代理人弁護士	清原義博
同	坂戸敦
被告	アスベル株式会社
同訴訟代理人弁護士	山上和則
同	清水良寛
同	雨宮沙耶花
同	野中啓孝
同訴訟代理人弁護士	廣幸正樹
同補佐人弁護士	小谷悦司
同	小谷昌崇
同	村松敏郎

## 被告製品目録

### 1 - 1 被告蓋体 1

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 5 4 0 」とする容器に使用されている蓋体

( 2 ) 被告蓋体 1 の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回転し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

( 3 ) 被告蓋体 1 の寸法

直径約 1 1 5 mm である。

### 2 - 1 被告蓋体 2

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 5 4 1 」とする容器に使用されている蓋体

( 2 ) 被告蓋体 2 の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

( 3 ) 被告蓋体 2 の寸法

直径約 1 4 0 mm である。

3 - 1 被告蓋体 3

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 5 4 2 」とする容器に使用されている蓋体

( 2 ) 被告蓋体 3 の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形

成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と，

- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に，隆起する平面視略円形の一の領域を備え，
- d 前記一の領域は，前記容器内の流体を排出可能な穴部と，該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え，
- e 該フラップ部は，前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに，該基端部を軸に回転し，
- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，
- g 前記フラップ部の前記基端部は，前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され，
- h 前記一の領域が，前記フラップ部を収容する凹領域を備え，
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

( 3 ) 被告蓋体 3 の寸法

直径約 1 6 4 mm である。

( 4 ) 図面の説明

- ・ 図 1 は被告蓋体 3 の斜視図である。
- ・ 図 2 は被告蓋体 3 の平面図である。
- ・ 図 3 は被告蓋体 3 の断面図である。
- ・ 図 4 は被告蓋体 3 のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 5 は被告蓋体 3 のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图1

盖体

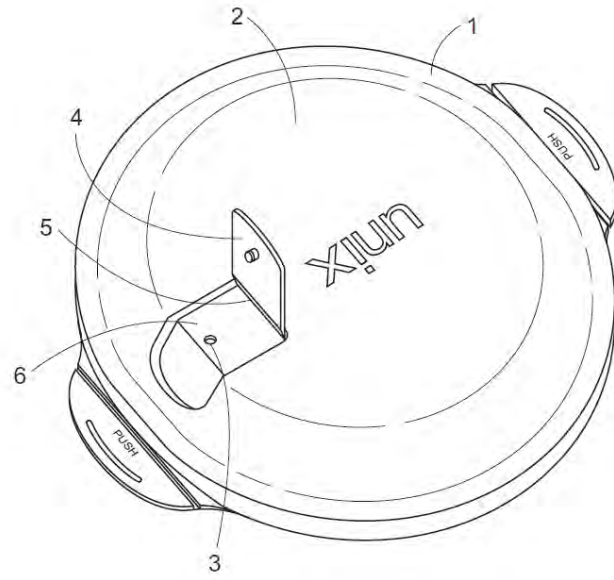


图2

盖体

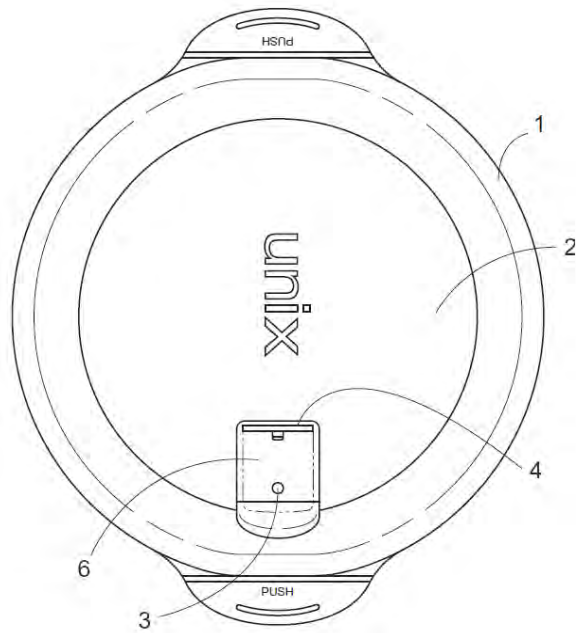


图3

盖体

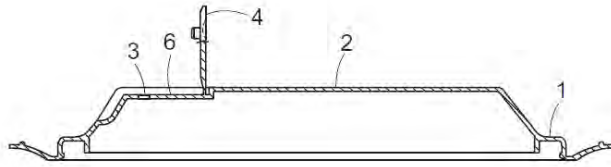
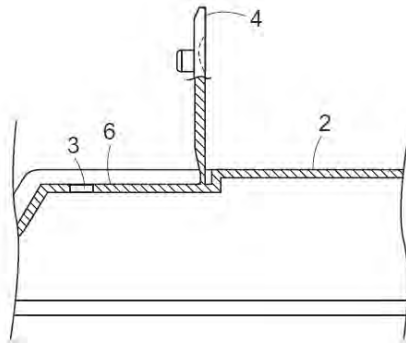
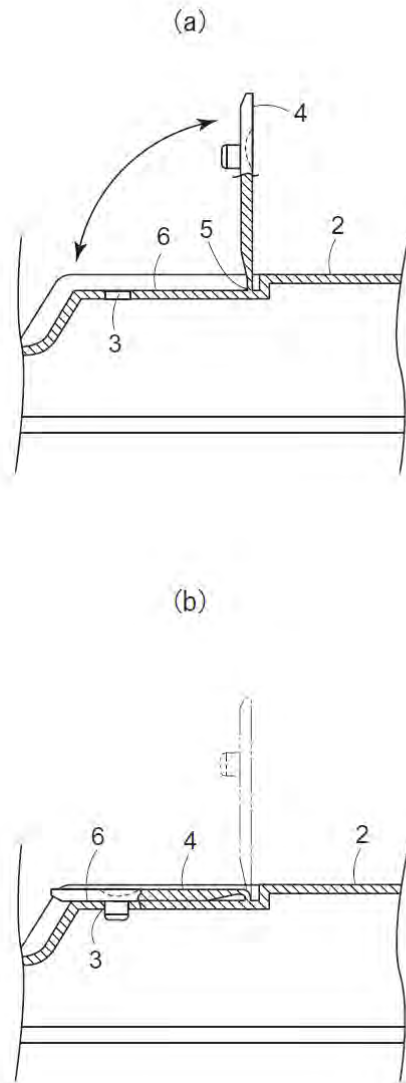


图4





4 - 1 被告蓋体 4

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 5 4 3 」とする容器に使用されている蓋体

( 2 ) 被告蓋体 4 の構成

a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって、

b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、

- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回転し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

(3) 被告蓋体4の寸法

縦約96mm、横約162mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。

5 - 1 被告蓋体5

(1) 被告製品に係る品番を「4544」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体5の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞



可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

(3) 被告蓋体5の寸法

縦約116mm、横約184mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。

6-1 被告蓋体6

(1) 被告製品に係る品番を「4545」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体6の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、

- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，
- g 前記フラップ部の前記基端部は，前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され，
- h 前記一の領域が，前記フラップ部を収容する凹領域を備え，
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

( 3 ) 被告蓋体 6 の寸法

縦約 1 2 5 mm ，横約 2 0 0 mm ( 持ち手部分の長さを含む ) の平面視略長方形である。

( 4 ) 図面の説明

- ・ 図 1 は被告蓋体 6 の斜視図である。
- ・ 図 2 は被告蓋体 6 の平面図である。
- ・ 図 3 は被告蓋体 6 の断面図である。
- ・ 図 4 は被告蓋体 6 のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 5 は被告蓋体 6 のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图1

盖体

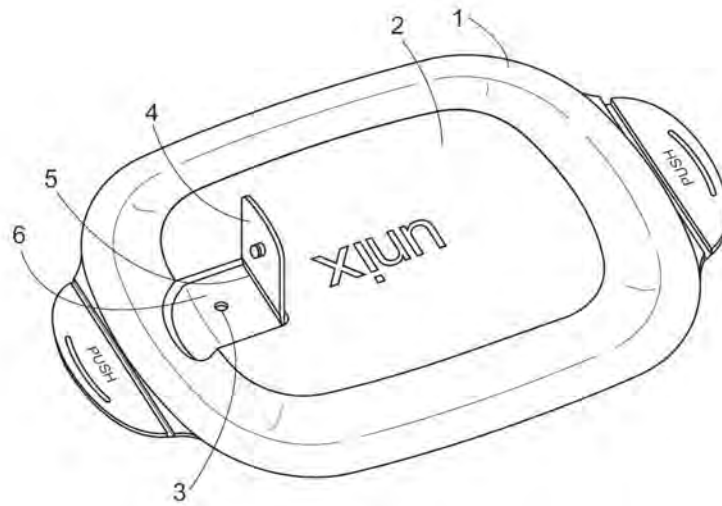


图2

盖体

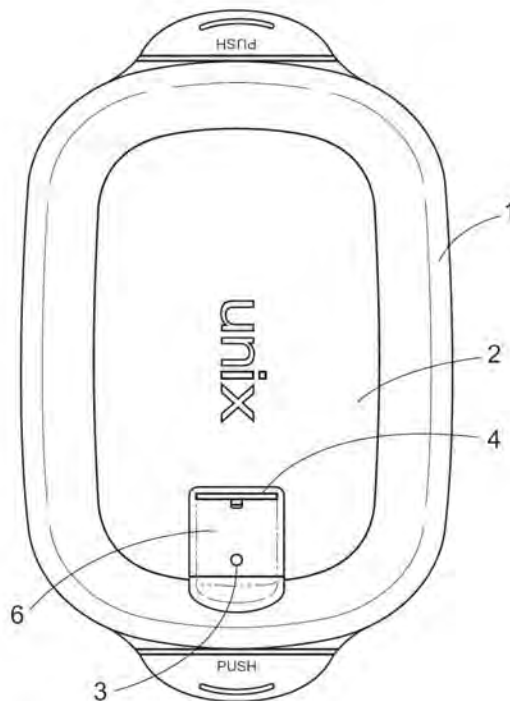


图3

盖体

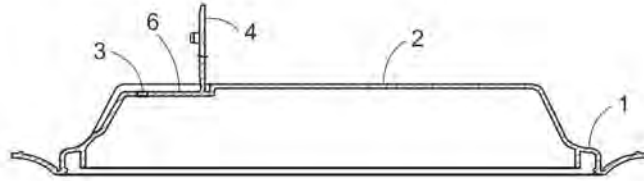
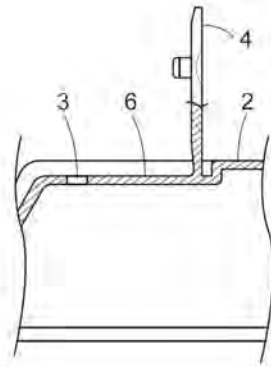
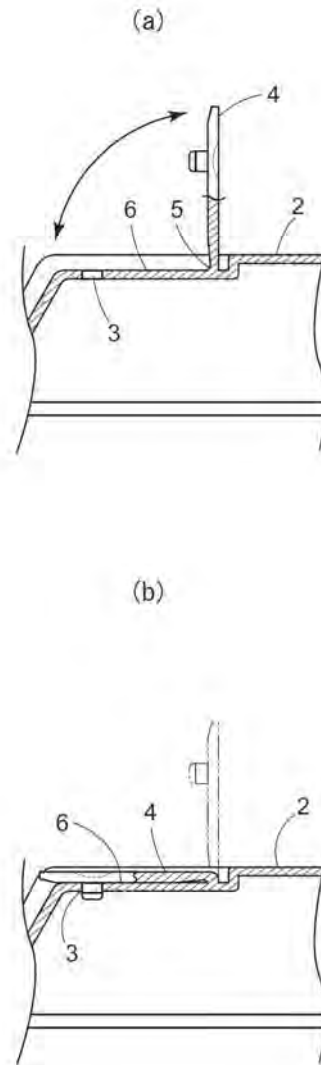


图4





7 - 1 被告蓋体 7

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 2 7 3 」とする容器に使用されている蓋体

( 2 ) 被告蓋体 7 の構成

a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体であって、

b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、

- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回転し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

(3) 被告蓋体7の寸法

直径約88mmである。

8 - 1 被告蓋体8

(1) 被告製品に係る品番を「4274」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体8の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 蓋体

(3) 被告蓋体8の寸法

直径約110mmである。

9 - 1 被告蓋体9

(1) 被告製品に係る品番を「4275」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体9の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前

記蓋体の中心位置から近い位置に配され、

h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、

i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している

j 蓋体

(3) 被告蓋体9の寸法

直径約124mmである。

(4) 図面の説明

- ・ 図1は被告蓋体9の斜視図である。
- ・ 図2は被告蓋体9の平面図である。
- ・ 図3は被告蓋体9の断面図である。
- ・ 図4は被告蓋体9のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図5は被告蓋体9のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

図1

蓋体

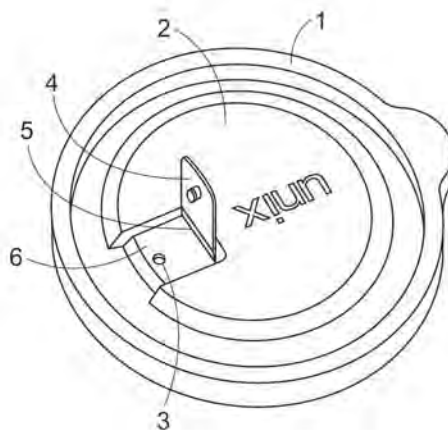




图2

盖体

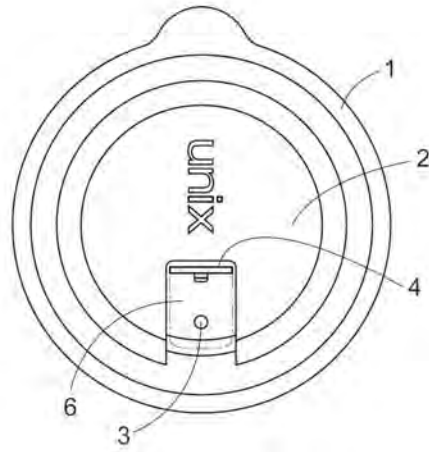


图3

盖体

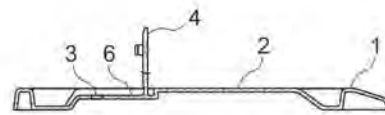


图4

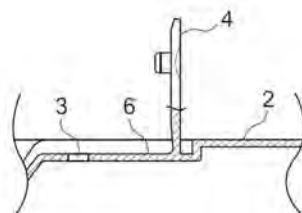
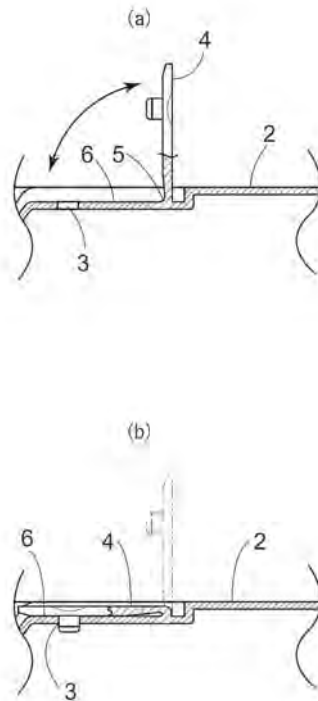


図5

蓋体



10 - 1 被告蓋体10

(1) 被告製品に係る品番を「4269」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体10の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって、
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとと

もに、該基端部を軸に回動し、

f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、

g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、

h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、

i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している

j 蓋体

### (3) 被告蓋体10の寸法

縦約80mm、横約115mm(持ち手部分の長さを含まない)の平面視略長方形である。

### 11-1 被告蓋体11

(1) 被告製品に係る品番を「4270」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体11の構成

a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって、

b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、

c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、

d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、

f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、

g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前

記蓋体の中心位置から近い位置に配され、

h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、

i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している

j 蓋体

(3) 被告蓋体 11 の寸法

縦約 94 mm、横約 133 mm (持ち手部分の長さを含まない) の平面視略長方形である。

12 - 1 被告蓋体 12

(1) 被告製品に係る品番を「4271」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体 12 の構成

a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって、

b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、

c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、

d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、

f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、

g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、

h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、

i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している

j 蓋体

(3) 被告蓋体 12 の寸法

縦約 108 mm, 横約 155 mm (持ち手部分の長さを含まない) の平面視略長方形である。

13 - 1 被告蓋体 13

(1) 被告製品に係る品番を「4272」とする容器に使用されている蓋体

(2) 被告蓋体 13 の構成

- a 食材を収容するとともに該食材を加熱可能な容器の胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体であって,
- b 前記蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに, 前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と,
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に, 隆起する平面視略長方形の一の領域を備え,
- d 前記一の領域は, 前記容器内の流体を排出可能な穴部と, 該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え,
- e 該フラップ部は, 前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに, 該基端部を軸に回動し,
- f 前記フラップ部の先端部は, 前記周縁領域の外縁に到達しておらず,
- g 前記フラップ部の前記基端部は, 前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され,
- h 前記一の領域が, 前記フラップ部を収容する凹領域を備え,
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している

j 蓋体

(3) 被告蓋体 13 の寸法

縦約 118 mm, 横約 168 mm (持ち手部分の長さを含まない) の平面視

略長方形である。

(4) 図面の説明

- ・ 図1は被告蓋体13の斜視図である。
- ・ 図2は被告蓋体13の平面図である。
- ・ 図3は被告蓋体13の断面図である。
- ・ 図4は被告蓋体13のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図5は被告蓋体13のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

図1

蓋体

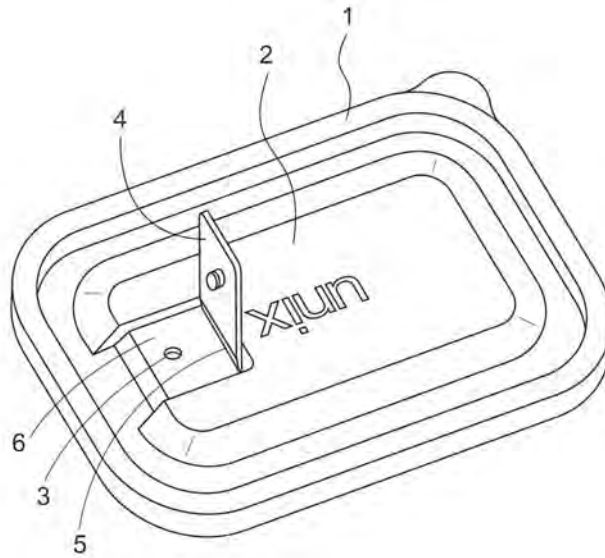


图2

盖体

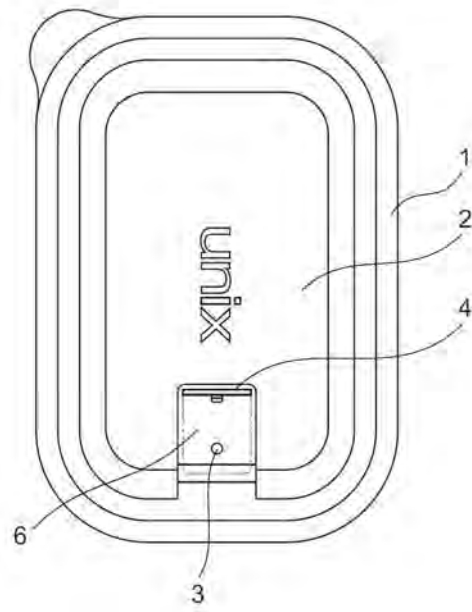


图3

盖体

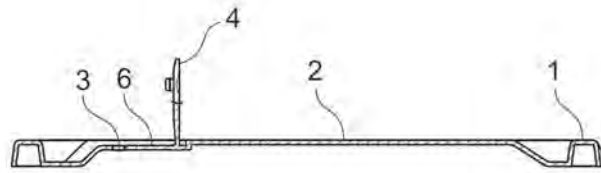
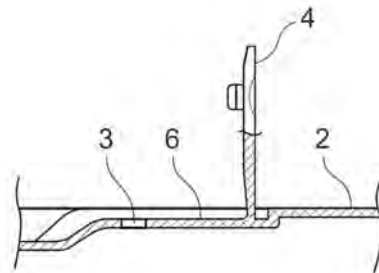
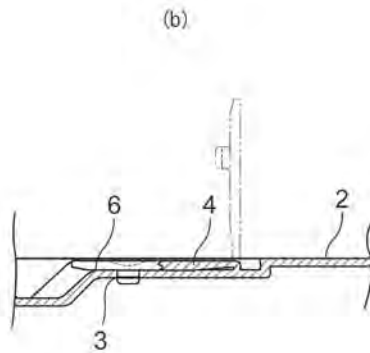
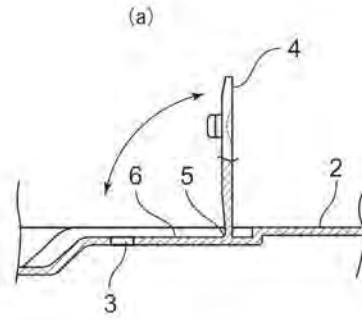


图4







1 - 2 被告容器 1

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 5 4 0 」とする容器

( 2 ) 被告容器 1 の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起す

る平面視略円形の一の領域を備え、

- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回転し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

### (3) 被告容器1の寸法・容量

蓋体は、直径約115mmの平面視略円形である。容量は290mlである。

## 2-2 被告容器2

### (1) 被告製品に係る品番を「4541」とする容器

### (2) 被告容器2の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

- e 該フラップ部は，前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに，該基端部を軸に回動し，
- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，
- g 前記フラップ部の前記基端部は，前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され，
- h 前記一の領域が，前記フラップ部を収容する凹領域を備え，
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

### (3) 被告容器2の寸法・容量

蓋体は、直径約140mmの平面視略円形である。容量は490mlである。

## 3 - 2 被告容器3

### (1) 被告製品に係る品番を「4542」とする容器

#### (2) 被告容器3の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と，該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって，
- b 前記蓋体が，該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに，前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と，
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に，隆起する平面視略円形の一の領域を備え，
- d 前記一の領域は，前記容器内の流体を排出可能な穴部と，該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え，
- e 該フラップ部は，前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに，該基端部を軸に回動し，
- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，

- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

( 3 ) 被告容器 3 の寸法・容量

蓋体は、直径約 164 mm の平面視略円形である。容量は 900 ml である。

( 4 ) 図面の説明

- ・ 図 1 は被告容器 3 の斜視図である。
- ・ 図 2 は被告容器 3 の平面図である。
- ・ 図 3 は被告容器 3 の断面図である。
- ・ 図 4 は被告容器 3 の蓋体の断面図である。
- ・ 図 5 は被告容器 3 の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 6 は被告容器 3 の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图1

容器

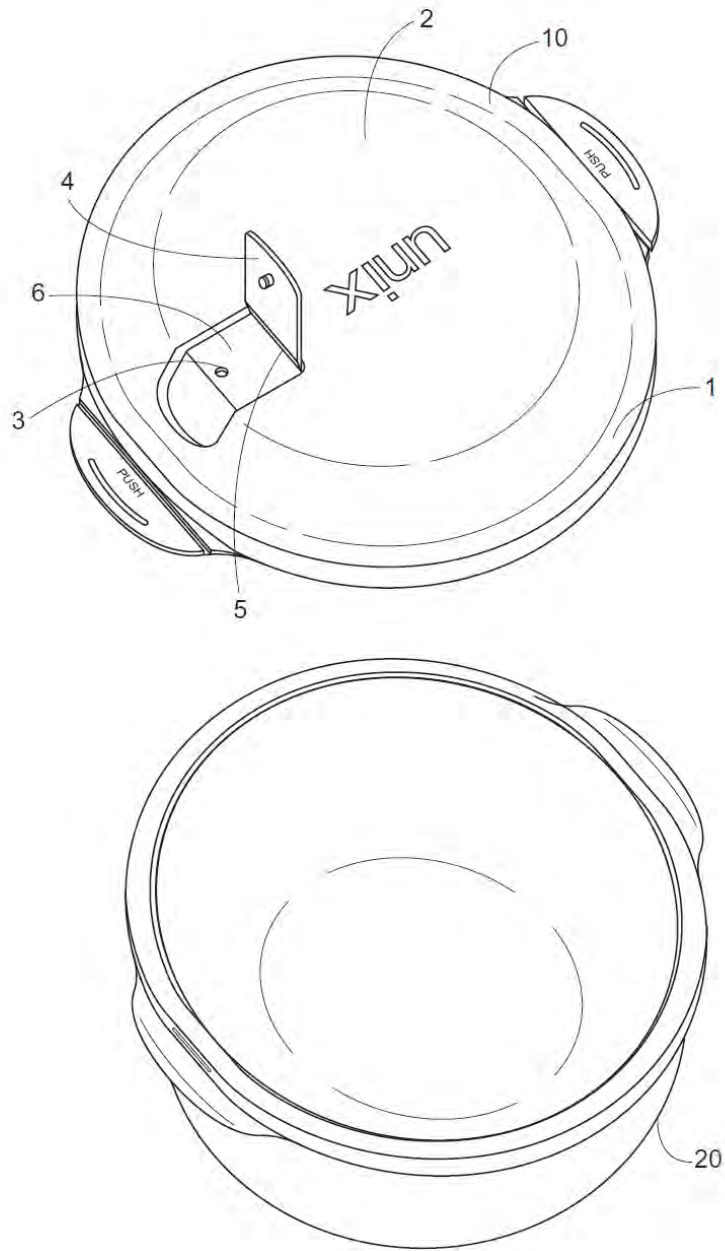


图2

容器

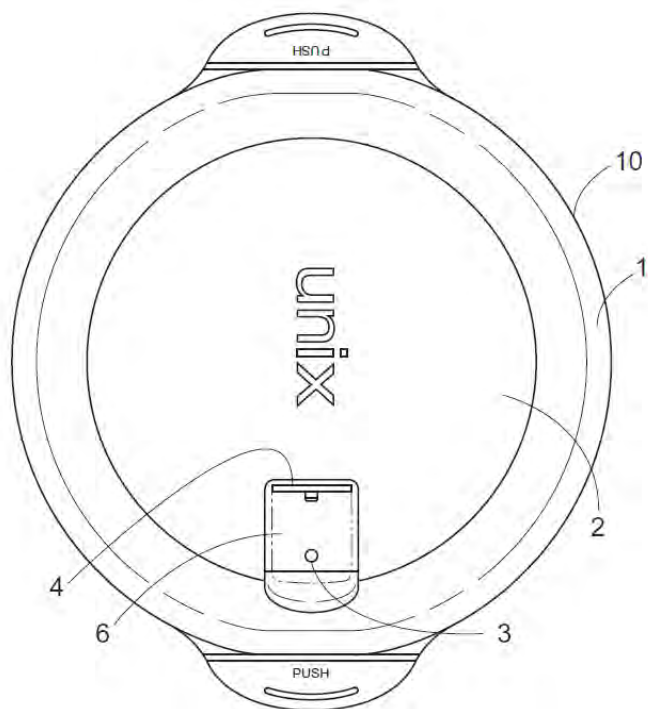


图3

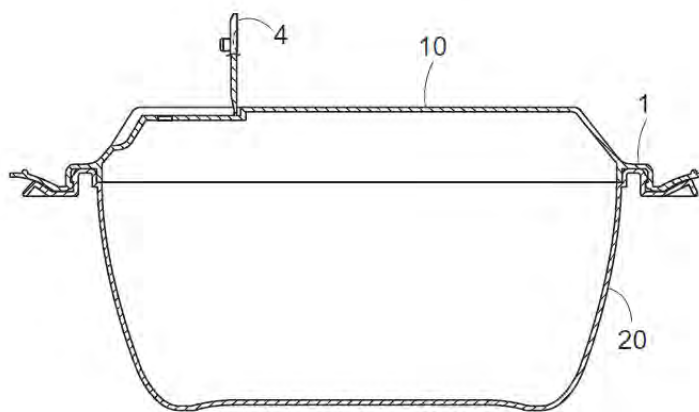


图4

容器

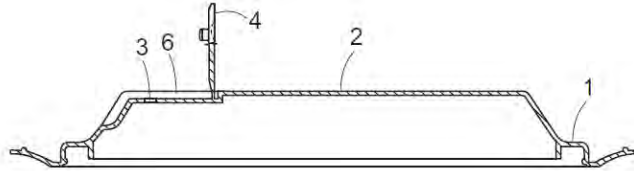
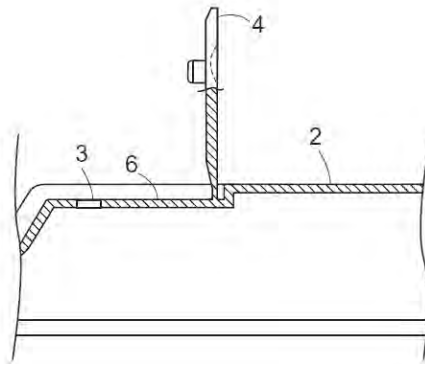
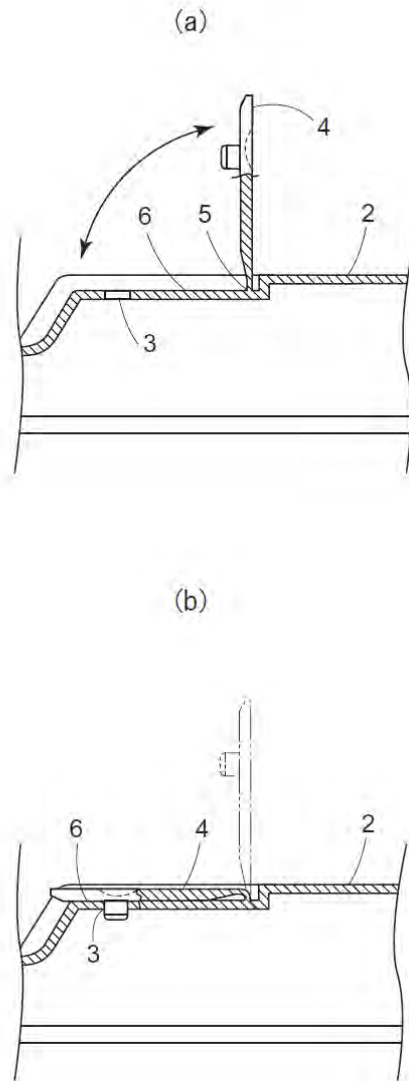


图5





4 - 2 被告容器 4

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 5 4 3 」とする容器

( 2 ) 被告容器 4 の構成

a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、

b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記



開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、

- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備え、るとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

### (3) 被告容器4の寸法・容量

蓋体は、縦約96mm、横約162mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。容量は270mlである。

## 5 - 2 被告容器5

### (1) 被告製品に係る品番を「4544」とする容器

### (2) 被告容器5の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起す

る平面視略長方形の一の領域を備え、

- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

### (3) 被告容器5の寸法・容量

蓋体は、縦約116mm、横約184mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。容量は450mlである。

## 6-2 被告容器6

### (1) 被告製品に係る品番を「4545」とする容器

### (2) 被告容器6の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域と隣接した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞

可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備え、とともに、該基端部を軸に回転し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

### (3) 被告容器6の寸法・容量

蓋体は、縦約125mm、横約200mm(持ち手部分の長さを含む)の平面視略長方形である。容量は450mlである。

### (4) 図面の説明

- ・ 図1は被告容器6の斜視図である。
- ・ 図2は被告容器6の平面図である。
- ・ 図3は被告容器6の断面図である。
- ・ 図4は被告容器6の蓋体の断面図である。
- ・ 図5は被告容器6の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図6は被告容器6の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图1

容器

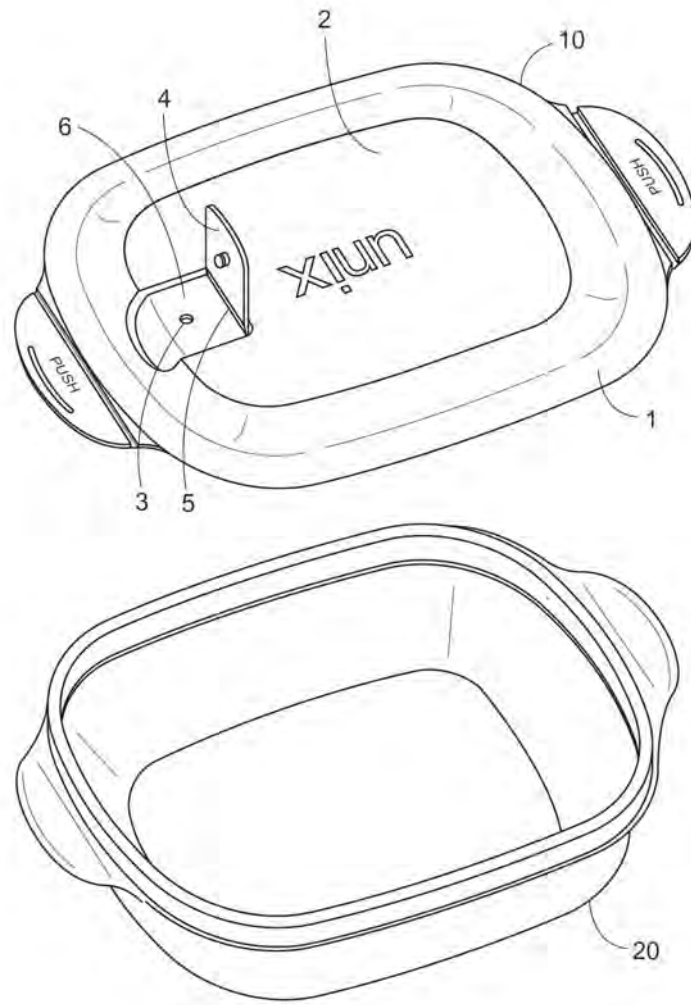


图2

容器

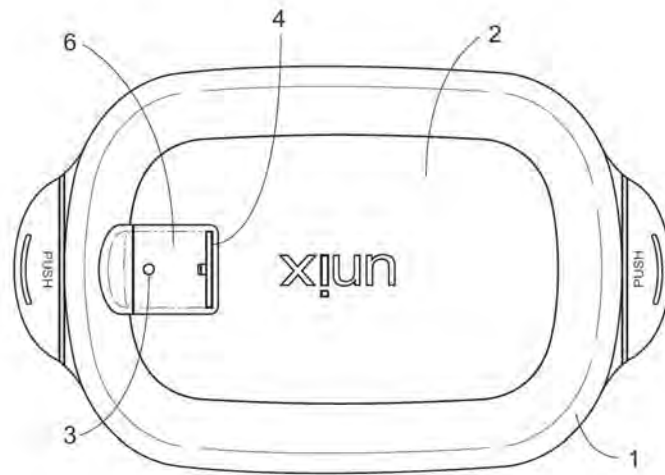


图3

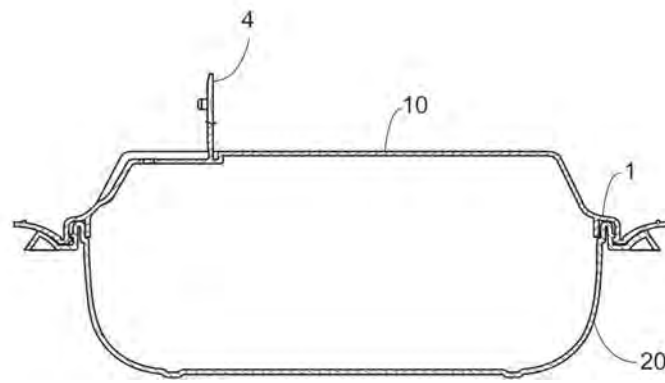


图4

容器

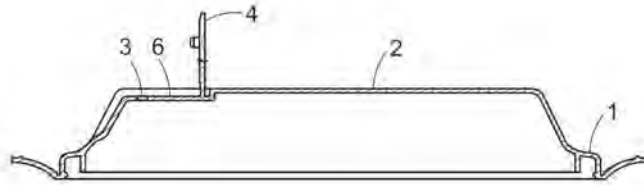
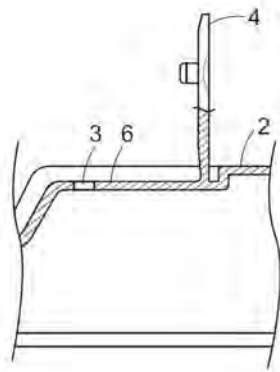
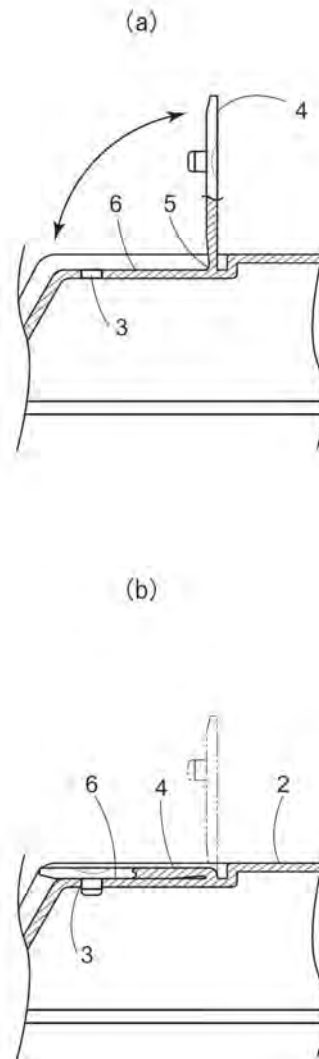


图5





7 - 2 被告容器 7

( 1 ) 被告製品に係る品番を「 4 2 7 3 」とする容器

( 2 ) 被告容器 7 の構成

a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、

b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記

開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、

- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備え、るとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

### (3) 被告容器7の寸法・容量

蓋体は、直径約88mmの平面視略円形である。容量は150mlである。

## 8 - 2 被告容器8

### (1) 被告製品に係る品番を「4274」とする容器

### (2) 被告容器8の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略円形の一の領域を備え、



- d 前記一の領域は，前記容器内の流体を排出可能な穴部と，該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え，
- e 該フラップ部は，前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに，該基端部を軸に回転し，
- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，
- g 前記フラップ部の前記基端部は，前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され，
- h 前記一の領域が，前記フラップ部を収容する凹領域を備え，
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

(3) 被告容器8の寸法・容量

蓋体は、直径約110mmの平面視略円形である。容量は270mlである。

9 - 2 被告容器9

(1) 被告製品に係る品番を「4275」とする容器

(2) 被告容器9の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と，該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略円形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって，
- b 前記蓋体が，該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに，前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と，
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に，隆起する平面視略円形の一の領域を備え，
- d 前記一の領域は，前記容器内の流体を排出可能な穴部と，該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え，
- e 該フラップ部は，前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに

もに、該基端部を軸に回動し、

- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

(3) 被告容器9の寸法・容量

蓋体は、直径約124mmの平面視略円形である。容量は400mlである。

(4) 図面の説明

- ・ 図1は被告容器9の斜視図である。
- ・ 図2は被告容器9の平面図である。
- ・ 図3は被告容器9の断面図である。
- ・ 図4は被告容器9の蓋体の断面図である。
- ・ 図5は被告容器9の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図6は被告容器9の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图1

容器

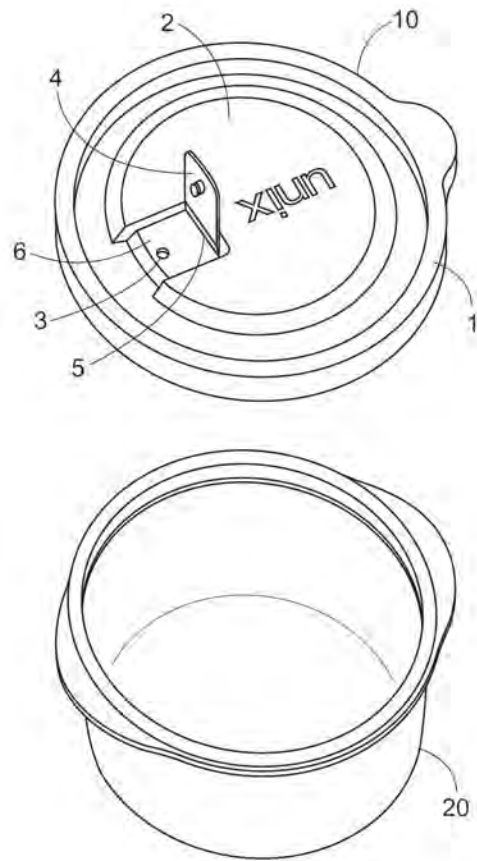


图2

容器

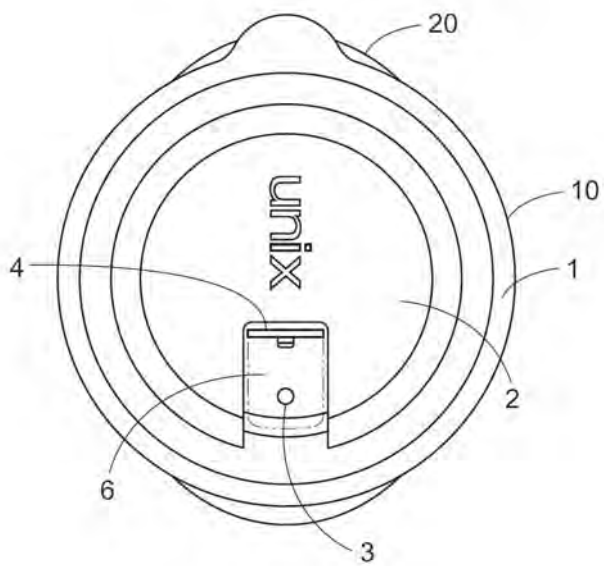


图3

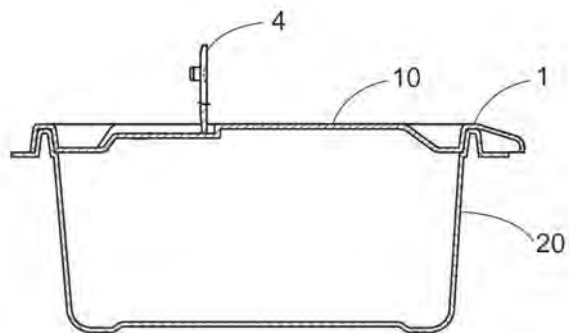


图4

容器

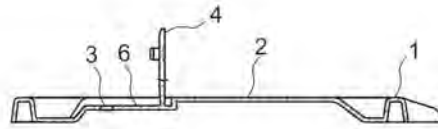
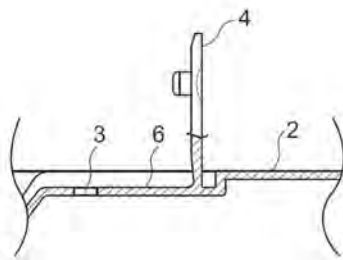
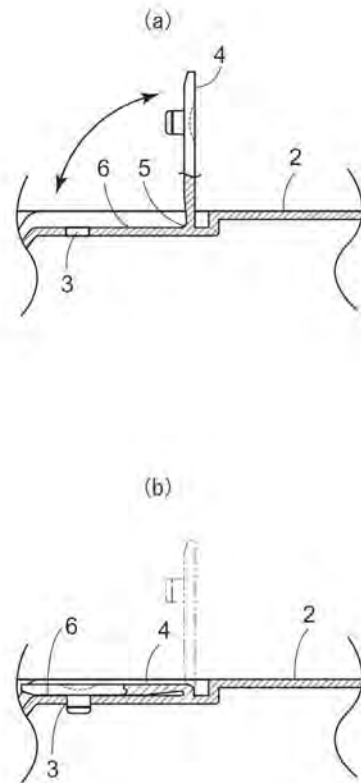


图5





10 - 2 被告容器10

(1) 被告製品に係る品番を「4269」とする容器

(2) 被告容器10の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起

- する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
  - e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備え、るとともに、該基端部を軸に回動し、
  - f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
  - g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
  - h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
  - i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
  - j 容器

### (3) 被告容器10の寸法・容量

蓋体は、縦約80mm、横約115mm(持ち手部分の長さを含まない)の平面視略長方形である。容量は190mlである。

### 11-2 被告容器11

#### (1) 被告製品に係る品番を「4270」とする容器

#### (2) 被告容器11の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞

可能な突起部を備えるフラップ部を備え、

- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備え、るとともに、該基端部を軸に回動し、
- f 前記フラップ部の先端部は、前記周縁領域の外縁に到達しておらず、
- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

(3) 被告容器 11 の寸法・容量

蓋体は、縦約 94 mm、横約 132 mm (持ち手部分の長さを含まない) の平面視略長方形である。容量は 300 ml である。

12 - 2 被告容器 12

(1) 被告製品に係る品番を「4271」とする容器

(2) 被告容器 12 の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と、該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって、
- b 前記蓋体が、該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに、前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と、
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に、隆起する平面視略長方形の一の領域を備え、
- d 前記一の領域は、前記容器内の流体を排出可能な穴部と、該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え、
- e 該フラップ部は、前記一の領域に一体的に接続する基端部を備え、ると



もに，該基端部を軸に回動し，

- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，
- g 前記フラップ部の前記基端部は，前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され，
- h 前記一の領域が，前記フラップ部を収容する凹領域を備え，
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

(3) 被告容器12の寸法・容量

蓋体は，縦約108mm，横約155mm（持ち手部分の長さを含まない）の平面視略長方形である。容量は510mlである。

13-2 被告容器13

(1) 被告製品に係る品番を「4272」とする容器

(2) 被告容器13の構成

- a 食材を収容する一端有底筒状の容器胴体部と，該容器胴体部の開口部を閉塞する平面視略長方形の蓋体からなるとともに前記食材を加熱可能な容器であって，
- b 前記蓋体が，該蓋体の外周輪郭形状を定めるとともに，前記容器の前記開口部を形成する前記容器の縁部と嵌合する周縁領域と，
- c 該周縁領域に囲まれる領域の内部の周縁領域から離間した位置に，隆起する平面視略長方形の一の領域を備え，
- d 前記一の領域は，前記容器内の流体を排出可能な穴部と，該穴部を閉塞可能な突起部を備えるフラップ部を備え，
- e 該フラップ部は，前記一の領域に一体的に接続する基端部を備えるとともに，該基端部を軸に回動し，
- f 前記フラップ部の先端部は，前記周縁領域の外縁に到達しておらず，

- g 前記フラップ部の前記基端部は、前記フラップ部の前記先端部よりも前記蓋体の中心位置から近い位置に配され、
- h 前記一の領域が、前記フラップ部を収容する凹領域を備え、
- i 前記凹領域は前記一の領域上面の周縁部に接続している
- j 容器

(3) 被告容器 13 の寸法・容量

蓋体は、縦約 118 mm、横約 168 mm (持ち手部分の長さを含まない) の平面視略長方形である。容量は 680 ml である。

(4) 図面の説明

- ・ 図 1 は被告容器 13 の斜視図である。
- ・ 図 2 は被告容器 13 の平面図である。
- ・ 図 3 は被告容器 13 の断面図である。
- ・ 図 4 は被告容器 13 の蓋体の断面図である。
- ・ 図 5 は被告容器 13 の蓋体のフラップ部の周囲の断面図である。
- ・ 図 6 は被告容器 13 の蓋体のフラップ部の基端部の構造を示す拡大図である。

图1

容器

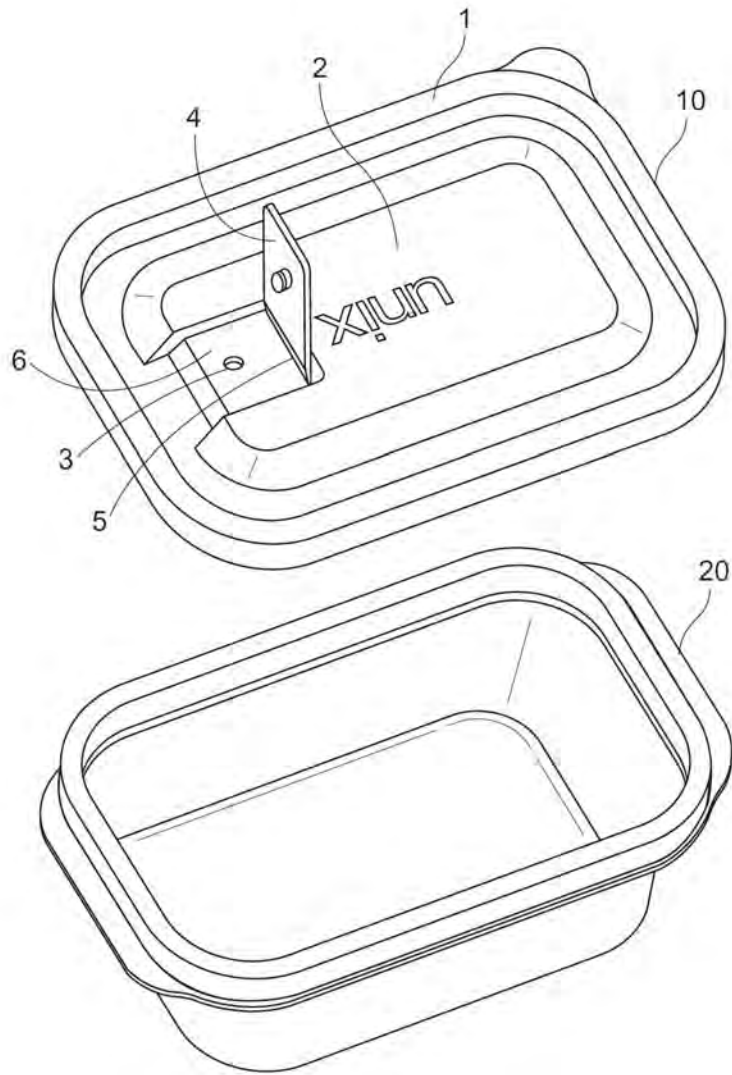


图2

容器

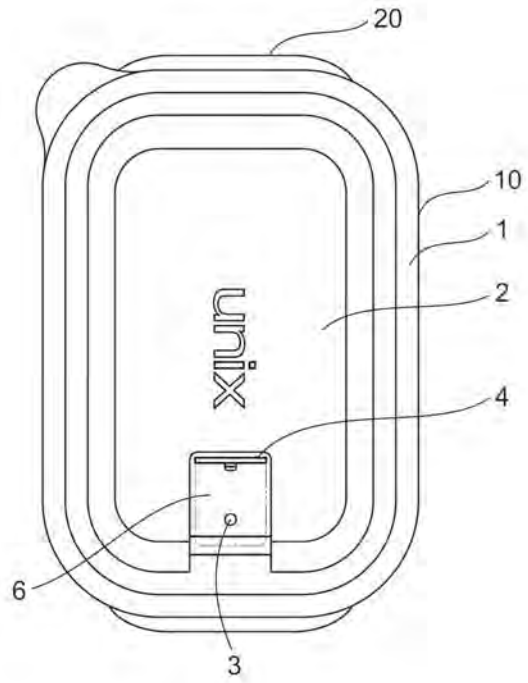


图3

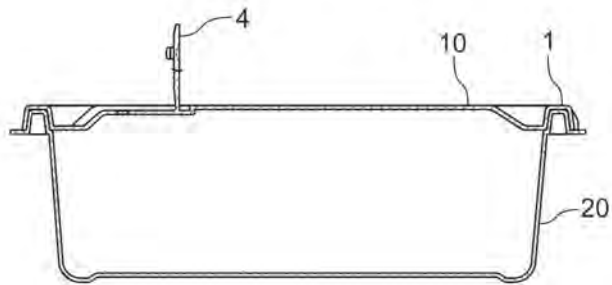


图4

容器

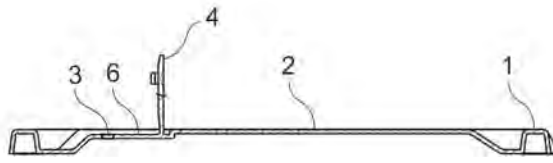


图5

